

目指す学校像		群馬県農林業の多様な担い手育成						達成度	
重点方針		1 質の高い教育の実行 2 実績の上がる学生募集の実行 3 実績の上がる進路指導の実行 4 県民の期待に応えられる研修の実行						A 100% B 80%以上100%未満 C 60%以上80%未満 D 60%未満	
番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの	
1	質の高い教育の実行	<p>1 これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。</p> <p>2 課題解決研究に取り組み、能動的に学ぶ力を育んでいる。</p> <p>3 1年次は全寮制とし、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育んでいる。</p> <p>4 変化に対応できる経営力を育てるため、国際化や技術・情報の高度化、6次産業化に対応できる生産・加工技術やマネジメント能力を養成する実践学習を強化している。</p> <p>(1)国際水準GAPを教育カリキュラムに導入し、農場等での実習を通して、農業生産技術に加え国際感覚を兼ね備えた担い手を育成している。 ※ASIA GAP認証 平成29年12月13日 (野菜コース:トマト、キュウリ、ナス、イチゴ)</p> <p>(2)H30年に園芸施設(野菜、花き)が、ぐんまイノベーションファームとして、学生教育の高度化と県内農業者への最新農業技術の普及拠点として整備された。</p>	<p>・学生にとって分かりやすい授業の実施</p> <p>・学生がやる気と自信の持てる教育</p>	<p>・授業評価に基づく授業方法の改善 教養科目・共通科目の授業アンケート (H30:コース専門科目)</p> <p>・よりよい授業のための研修実施 職員への支援 (職場研修、派遣研修)</p> <p>・能動的に学ぶ力を育てる アクティブラーニングの導入 (全コースに導入)</p> <p>・課題研究・意見発表等への取り組みの強化 (全国大会出場を目指す)</p> <p>・先進農林家等体験学習をインターンシップと兼ねるなど効果的に実施 インターンシップ先への就農・就業</p> <p>・国際水準GAPの実践 全コースで取り組む</p> <p>・イノベーションファームを活用した最先端の農業技術の習得 収量、品質の向上</p> <p>・6次産業化学習の強化 販売学習、地域等と連携した商品開発</p> <p>・1分間スピーチによるプレゼンテーション能力の向上</p> <p>・基礎学力向上 実習等で必要な学び直しの補講の実施</p> <p>・学業優秀者、生活態度優秀者の表彰</p>					

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの
			・社会生活の基本を身につける	・寮生活を通して規律、協調、思いやりの精神を育む ・学生、職員一体となったあいさつ運動の実施				
			・教育環境の充実	・寮の生活環境改善 寮内インターネット環境の強化 ・施設整備計画の作成 ・キャンパスの環境整備				
			・地域、外部機関との連携	・地域貢献等 箕輪城周辺の環境整備 学校給食と食育活動 地元小学校との交流 ・外部企画のプロジェクトに挑戦 ・イノベーションファームの運営				
		(数値目標と評価)		◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上 ◎アクティブラーニング 試行導入授業 8科目(各コース1科目以上) ◎課題研究・意見発表で全国大会出場 1名以上 ◎懸賞論文等への応募者(森林コース除く) 1年生 100%				
2	実績の上がる学生募集の実行	1 少子化により減少傾向であった入校生も、HPの更新や学生募集の強化、PRによりH30年度から2年連続で増えてきている。(H29年度62名、H30年度73名、H31年度86名/定員100名) 2 近年の入校生の状況は、非農家出身者の増加(H31入校生:70%)、女子学生の増加(H31入校生:35%)が特徴となっている。 3 本校入校生の約6割が農業高校出身者(H31年入校生:59%)であり、農業高校との連携とともに、普通高校へのPRが重要となっている。	・農林大学校のPR ・農業高校との連携強化	・魅力あるオープンキャンパスの開催 学生が中心となった運営 保護者の不安解消対策 ・県内高校への学生募集訪問 全職員での取り組み 学生による母校訪問 ・情報発信の強化 学校案内やホームページによるPR イノベーションファームの魅力発信 ・連携会議等を通じた情報交換 農業高校の担任等へのPR強化 ・学校見学会の積極的な受入れ ・職員による派遣講義で高・大連携を深める				
		(数値目標と評価)		◎オープンキャンパス 参加者数 実参加者150名 参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上90%以上 ◎高校訪問 45校 2回実施 ◎HPの更新回数 100回以上 ◎入校生の確保 80名以上				

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの
3	実績の上がる 進路指導の実行	<p>1 H30年度卒業生の進路決定率は100%で、進路決定者のうち就農23.0%(森林コースを除く29.2%)、就職77.0%、進学0.0%であった。農林業団体への就職が良好であったことが特徴である。</p> <p>2 森林コースを除く就農率は、近年30~40%と減少傾向となっている。また、就農者のうち60%~70%は雇用就農で近年その割合が増加している。 就農希望者であっても、家族の希望により、社会経験を積んだ後に就農する学生も散見される。</p> <p>3 近年、林業への就業率は60%を超えている。特に森林組合への就業者は増加しており、林業の担い手として期待されている。</p>	(1年生) ・進路希望の把握と進路指導体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路方向の決定と進路別指導 個別面談 希望調査</li> <li>・進路ガイダンスによる指導(3回)</li> <li>・学内企業説明会の開催 9月 農業法人、森林組合等 3月 " 農林業関連企業</li> <li>・社会人としてのマナーアップ講座等の開催(2月)</li> <li>・就農、就業(林業)への支援 農業法人、森林組合への理解を深める。 特別講演会の開催 海外研修への参加誘導 農業次世代人材投資資金(準備型)、緑の青年就業準備給付金の活用</li> </ul>				
			(2年生) ・きめ細やかな進路別指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農者、雇用就農者、就業者への支援 農業法人の情報収集と分析指導 農業法人説明会の開催(9月) 特別講演会の開催 海外研修への参加誘導 農業次世代人材投資資金(準備型)、緑の青年就業準備給付金の活用 農業法人協会、農業経営士、農村生活アドバイザーとの連携</li> <li>・就職活動状況の把握と支援 面接指導</li> <li>・編入学希望者への支援 補講、面接指導等</li> </ul>				
			・専門資格取得教育の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補講の実施 毒物劇物取扱者 危険物取扱者(乙4類) 日本農業技術検定2級 他</li> </ul>				
		(数値目標と評価)	(2年生) ◎進路決定率 100% ◎就農率 40%以上 ◎林業関係の就業率 60%以上 ◎日本農業技術検定(2級)の合格者割合 30%以上 ◎合格率 毒物劇物取扱者 30%以上 危険物取扱者(乙4類) 30%以上 農業機械系資格 100% 狩猟(わな猟)免許 100%					

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1 ぐんま農業実践学校は定員を超える応募があるが、団塊の世代交代が終わり、定年帰農者を対象にしたコースの見直しやJAと連携し産地の担い手を育成するためのコースを新設し、時代の変化に対応している。また、研修終了3年後(H27年度実践学校修了者)の農業従事率は80.6%となっている。	・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営	・就農に向けた体系的な研修の実施 定着支援セミナーの実施  ・研修生の確保に向けた取り組み ナスとネギを対象とした推進品目課程を新たに実施 ニーズに対応したコース再編のさらなる検討  ・JA等と連携した担い手の育成 各地域JAへの実践学校PR				
		2 農業機械研修は、大型トラクター免許取得研修、作業機械研修、安全研修等を実施している。最近の傾向として高齢者、女性、雇用就農者の受講希望が多くなっている。	・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施	・農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得  ・女性農業者を対象とした機械研修の実施 安全研修から免許取得研修までを組み合わせて実施  ・農作業安全研修の実施 農業事務所等と連携した研修の実施				
		3 講座への応募は毎年多くあるが、5割以上がリピーターで占めている。農林大の特色を活かした講座の開催と新たな受講生の開拓が課題となっている。	・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	・農林大職員の専門性を生かした講座の実施				
		(数値目標と評価)		◎実践学校研修生の満足度評価 「おおむね満足」以上 90%以上 ◎実践学校研修生の定員確保 100% ◎野菜専門技術課程就農率 100% ◎修了3年後の農業従事率 80% ◎大型特殊自動車免許等取得 合格率 100% ◎女性農業者基礎研修(I・II)の受講者数 2回/40名 ◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数 15回/150名 ◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上				